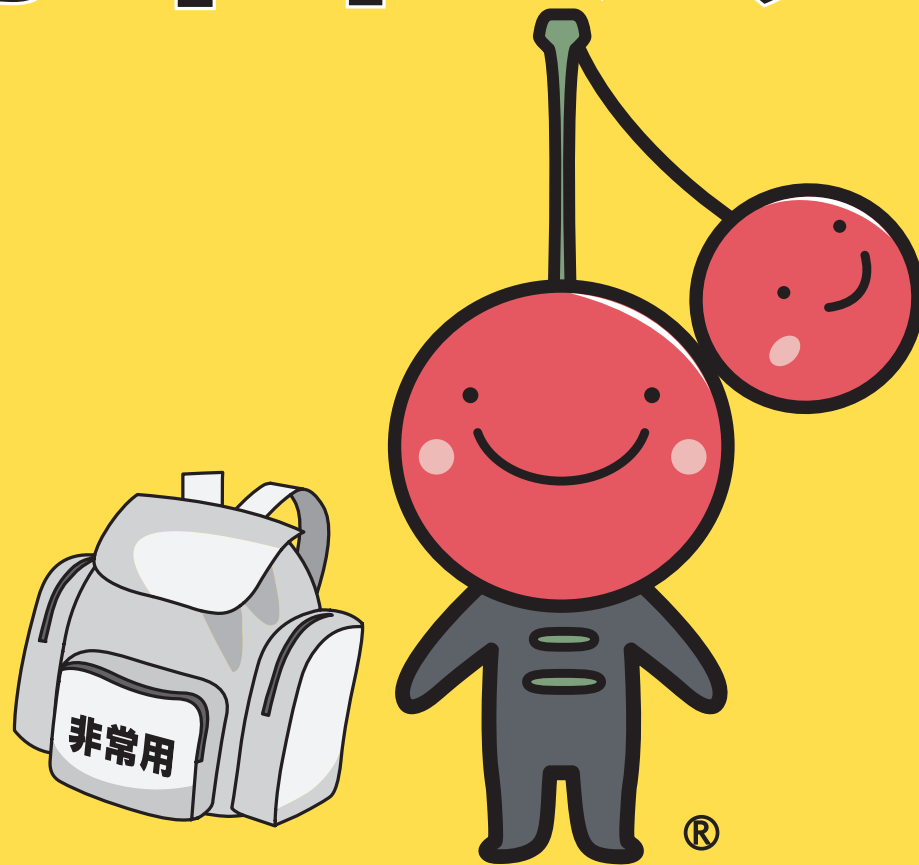


修正版

2021年9月

仁木町

防災 ガイドマップ



身を守るために的確な行動を!!

災害用伝言サービス | 安否情報などを家族や知人に知らせる方法を家族で確認しておきましょう

災害用伝言ダイヤル

171

大規模な災害が発生し、安否確認等の電話によって電話回線が混雑し、電話が繋がりにくい状況でも、伝言の録音・再生により、被災地内の家族や親戚・知人等と連絡を可能にする「声の伝言板」です。

録音 171 → 1 → 0135□□□□□□ → 伝言の録音

再生 171 → 2 → 0135□□□□□□ → 伝言の再生

案内放送が流れます.....

被災地の方の電話番号を市外局番から

※詳しい内容はNTTのホームページで確認してください。ホームページ <https://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/>

携帯電話災害用伝言板サービス

大規模な災害が発生した場合、携帯電話各社のトップに「災害用伝言板」が追加され、自らの安否状態を登録することが可能になり、登録された伝言は、インターネットや携帯電話などから確認することができます。

※使用にあたっては、各携帯電話会社のホームページで確認しておきましょう。

仁木町企画課

〒048-2492 仁木町西町1丁目36番地1

TEL:0135-32-3953

ホームページ <http://www.town.niki.hokkaido.jp/>

風水害・雪害

土砂災害

地震災害

災害への備え

ハザードマップ

避難所・避難場所

はじめに

自然災害に対応するためには、町民一人ひとりの活動や地域内の協力による活動が重要です。また、災害による被害をできるだけ少なくする「減災」のためには、「自助」・「共助」・「公助」3つの連携が必要です。



自助・・・町民一人ひとりが自分の命は自分で守る。自ら取り組む防災

- ・日ごろから、災害が発生した時の避難場所、避難経路を確認しておく
- ・日ごろから、非常時持出品の準備をする
- ・家具の耐震化、家具の固定を行う

共助・・・町民が連携してまちの安全はみんなで守る。

- ・自分たちの地域は自分たちで守る
- ・地域の連携、地域ぐるみの協力体制を活かす「自主防災組織」

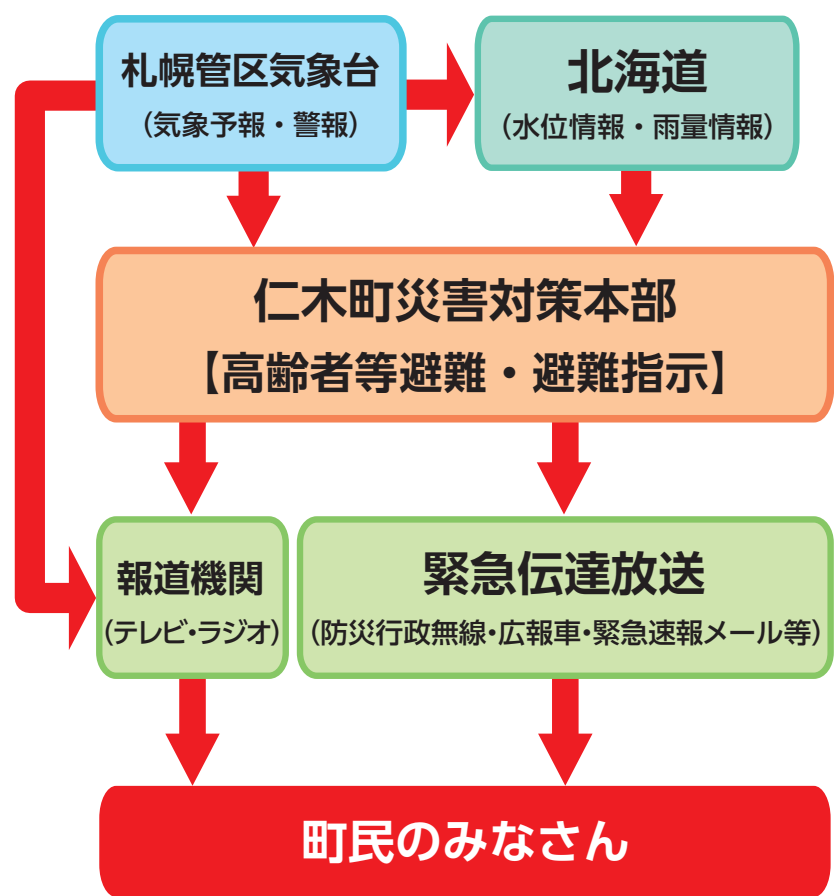
公助・・・行政が災害に強いまちづくりを進める。

- ・平時から防災に関する普及、啓発を行う
- ・災害時の救援、救出、応急、復旧活動を行う

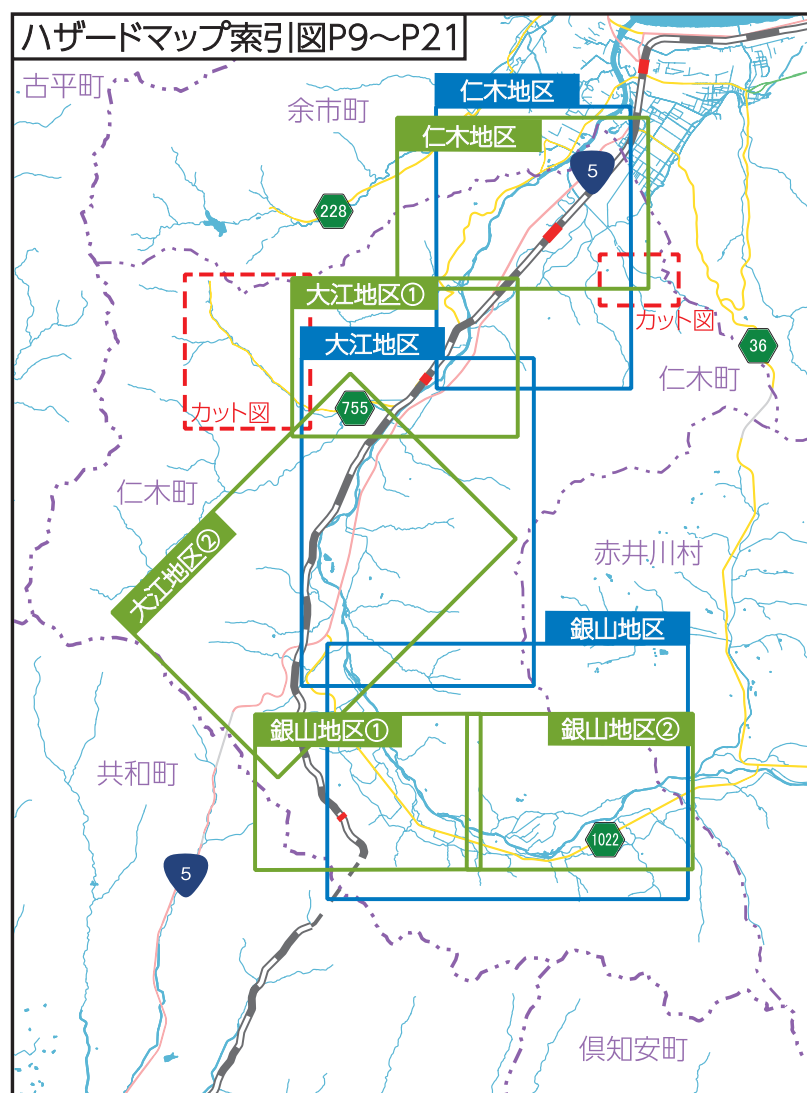
「仁木町防災ガイドマップ」には、土砂災害・洪水浸水想定区域・避難所等の災害時に避難を判断する際に必要な情報を掲載しています。

本書を身近な場所に保管していただき、ご家庭や地域などの身のまわりで、どのような災害の危険が及ぶのかを考え、被害をできるだけ少なくするために、防災・減災について考える際の参考にしてください。

災害情報の伝達方法



緊急連絡先 仁木町企画課 TEL:32-3953
消防仁木支署 TEL:32-2644

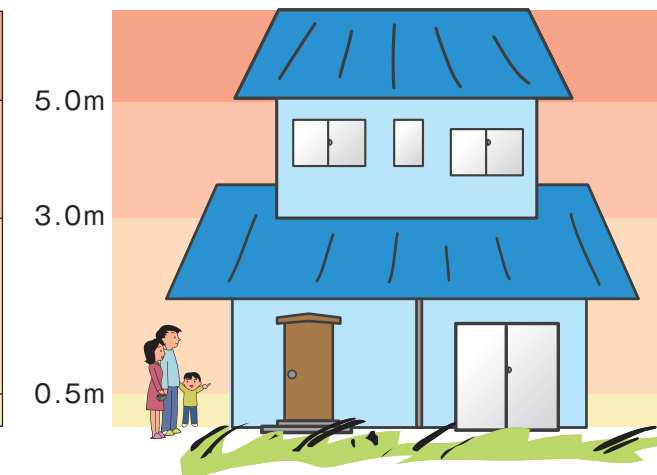


洪水ハザード情報について

1 洪水浸水想定区域について

- このハザードマップで使用している浸水情報は、水防法の規定により指定された洪水浸水想定区域を示したものです。余市川が大雨により氾濫した場合に浸水が予想される区域と浸水の深さを示しています。自分の住んでいる地区がどの程度浸水するのか確認してください。
- このハザードマップは、「想定最大規模(1000年に1回程度の降雨による洪水)」、「計画規模(50年に1回程度の降雨による洪水)」の洪水浸水想定区域及び浸水した場合に想定される水深を示しています。
- 雨の降り方によっては、想定とは異なる浸水の深さになったり、地図に表示された浸水区域以外でも浸水する可能性があります。
- 川が氾濫しない場合でも、低い土地などは浸水被害(床上・床下浸水など)が起こる場合がありますので十分注意してください。
- 浸水が始まってからの避難は危険です。浸水が始まる前に避難をはじめてください。外に避難することが危険な場合は、建物の高い場所など、想定される浸水の深さよりも高い場所に避難しましょう。
- 大雨が夜に予想されているときは特に注意してください。暗くなってから大雨の中を避難することは危険ですので、早めの避難を心がけてください。
- 浸水の深さの目安

5.0m以上の区域	2階の屋根以上が浸水する程度
3.0～5.0m未満の区域	2階の軒下まで浸水する程度
0.5～3.0m未満の区域	1階の全てが浸水する程度
～0.5m未満の区域	大人の膝までつかる程度



2 洪水情報の種類

洪水の危険性が高まった際に発表される情報

洪水注意報(気象庁)

- 洪水によって災害が発生するおそれがある場合、注意を呼びかける予報です。

洪水警報(気象庁)

- 洪水によって重大な災害が発生するおそれがある場合、警戒を呼びかける予報です。



■川の水位については、「川の防災情報 <https://www.river.go.jp/>」で入手することができます。



風水害対策について

大雨や強風は、わたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

雨の強さと降り方

10mm以上～20mm未満	20mm以上～30mm未満	30mm以上～50mm未満	50mm以上～80mm未満	80mm以上～
ザーザーと降る。雨の音で話し声が良く聞き取れない。	どしゃ降り。傘をさしてもぬれる。	バケツをひっくり返したように降る。道路が川になる。	滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く)傘は全く役に立たなくなる。	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。

(1時間雨量:mm/時間)

風の強さと吹き方

10m/秒以上～15m/秒未満	15m/秒以上～20m/秒未満	20m/秒以上～25m/秒未満	25m/秒以上～
風に向かって歩けなくなる。傘をさせない。	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業は極めて危険。	何にかつかまっていないと立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。	屋外の行動は極めて危険。

(平均風速:m/秒)

雪害対策について

大雪の日は「外出しないこと」が身の安全を守るための最善の対策です。

車を運転しているとき

見通しが悪い状況では、追突事故を引き起こすおそれが高いため、ハザードランプを点灯し、ゆっくりと路肩に寄せるなど無理に運転を続けないようにしましょう。

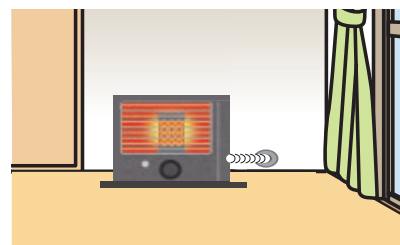


車で外出する場合の備え

- けん引ロープ
- 脱出板
- ブースターケーブル
- スノーブラシ
- 毛布
- スコップ

家の中ですごすとき

F F式暖房機などを使用している場合、給排気口が雪でふさがれると一酸化炭素中毒を起こすおそれがありますので、定期的に給排気口を確認しましょう。



雪害における停電への備え

- 使い捨てカイロ
- 電池
- 懐中電灯
- 電池式ストーブ
- 非常食 飲料水
- ラジオ
- 卓上コンロ

土砂災害の種類について

大雨などにより地中にしみ込んだ水分などが起因となり、大きな災害になる可能性があります。事前にその災害のメカニズムを理解し、周辺の変化に注意して災害に対応しましょう。

土砂災害

土砂災害警戒情報とは、大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で土砂災害が発生するおそれがあるとき警戒を呼びかける情報のことで、北海道と気象庁が共同で発表します。土砂災害警戒情報が発表されていなくても、普段と異なる状況「土砂災害の前兆」に気付いた場合には、直ちに周りの人と声をかけ合い安全な場所へ避難し、役場や消防に連絡してください。日ごろから危険箇所や避難所・避難経路を確認しておくことも重要です。

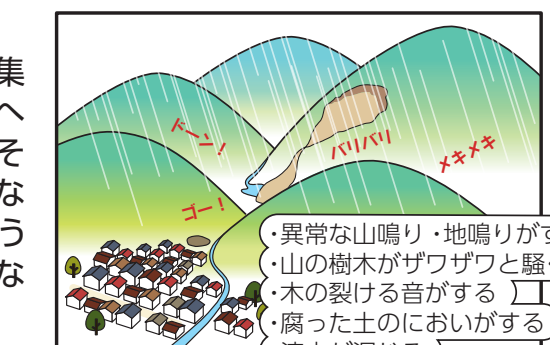
がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



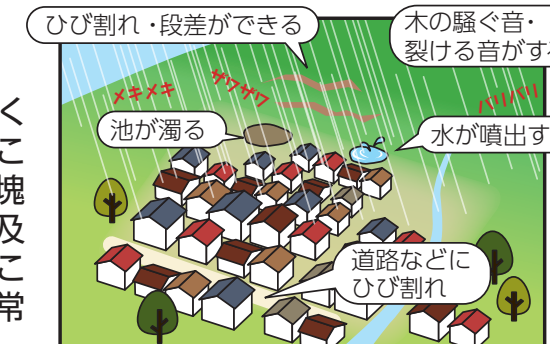
土石流

谷や斜面に溜まった土砂が、雨や集中豪雨などによって、一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20～40km/hという速度で一瞬のうちに人家や田畑などを壊滅させてしまいます。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によって、ゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動きだすと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。普段と違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

警戒区域と特別警戒区域とは

【警戒区域と特別警戒区域の設定について】

基礎調査により **土砂災害警戒区域(通称:イエローゾーン)** **土砂災害特別警戒区域(通称:レッドゾーン)** を設定します。

警戒区域イエローゾーン
土砂災害のおそれがある区域

- 地形条件で設定する
- 過去に発生した災害の実態から定められた地形の条件

- 急傾斜地(がけ)
- 傾斜度が30度以上で高さが5m以上の区域
- 斜面下部より高さの2倍の距離の範囲(最大で50m)
- 斜面上部より10mの範囲
- 土石流
- 地盤勾配2度以上の土地の範囲
- 地すべり
- 地すべりしている土地の長さと同じ範囲(最大で250m)

特別警戒区域レッドゾーン
建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域

建築耐力 土砂等の力

土砂等の力と建築物の耐力を算出し、比較判定により設定する

土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)

建築物の構造規制
新築、増改築を行う場合、建築確認申請の対象となります。土砂等による衝撃に対して安全な構造が求められます。

特定の開発行為に対する制限
宅地分譲、老人ホーム・病院などの要配慮者利用施設の建築を行うための開発行為には、許可が必要となります。

建築物の移転等の勧告
土砂災害が発生した場合、その居住者、利用者等の生命に著しい危害が生じるおそれのある建築物については、建築物の所有者や管理者が、移転等の勧告を受けることがあります。

■ 土砂災害情報については、「北海道土砂災害警戒情報システム <https://www.njwa.jp/hokkaido-sabou/>」で入手することができます。



スマホ版

地震対策について

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生
緊急地震速報

1~2分

3分

5分

10分
数時間
3日

揺れを感じたり、緊急地震速報を見聞きしたら

- 手近な座布団などで頭を保護し、避難経路を確認する
- 大きな揺れが来る前に、テーブルや机の下などで身の安全を確保する

揺れがおさまったら

- 火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱
- 避難するときは、ブロック塀・自動販売機等に注意

みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

隣近所に声をかけよう

- 隣近所で助け合う 災害弱者の安全確保
- 行方不明者はいないか ●ケガ人はいないか

出火防止 初期消火

- 初期消火 ●消火器を使う ●バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく
- 漏電・ガス漏れに注意 ガスの元栓・電気のブレーカーを切る ●余震に注意

ラジオなどで正しい情報を

- 防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマにまどわされないように ●電話は緊急連絡を優先する
- 津波からの避難などやむを得ない場合を除き、原則、車は使用しない

協力して消火活動、救出・救護活動を

- 災害情報・被害情報の収集 ●無理はしない ●こわれた家に入らない
- 助け合いの心が大切 ●避難所では、協力し合って自主運営
- 水、食料は蓄えているものでまかなう 最低3日分の飲料水と食料の備蓄をしておく

屋内にいた場合

家中

- 緊急地震速報を見聞きしたり、揺れを感じたら、すばやく身の安全を確保する。
- 火の使用中に揺れを感じたら、揺れが収まってから、あわてずに火の始末をする。(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)
- 乳幼児や病人、高齢者など災害弱者の安全を確保する。裸足で歩き回らない。(ガラスの破片に注意!)

デパート・スーパー

- カバン、買い物かごなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 避難にエレベーターは絶対使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

※エレベーター乗車中は全てのフロアのボタンを押して下さい。

劇場・ホール

- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

屋外にいた場合

路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- 近くに空き地などが無いときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機には近づかない。倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。

電車などの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。

車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、道路の左側に停め、緊急車両等の通行スペースを確認し、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

海岸付近

- 高台へ避難し津波情報をよく聞く。注意報、警報が解除されるまでは海岸に近づかない。

気象庁が発表する情報について

気象庁は、大雨や暴風などによって発生する災害の防止・軽減のため、気象特別警報・警報・注意報などの防災気象情報を発表しています。

気象警報・注意報の種類	
特別警報	大雨(土砂災害、浸水害)、暴風、暴風雪、大雪、波浪、高潮
警報	大雨(土砂災害、浸水害)、洪水、暴風、暴風雪、大雪、波浪、高潮
注意報	大雨、洪水、強風、風雪、大雪、波浪、高潮、雷、融雪、濃霧、乾燥、なだれ、低温、霜、着氷、着雪
早期注意情報(警報級の可能性)	大雨、暴風(暴風雪)、大雪、波浪

特別警報をご存知ですか? 特別警報の発表基準

現象の種類	基準
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合
暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により 暴風が吹くと予想される場合
高潮	高潮になると予想される場合
波浪	高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合

表中の“数十年に一度”の現象に相当する降雨量等の客観的な指標は気象庁ホームページで公表しています。


▶

特別警報が発表されたら

- 尋常ではない大雨や津波等が予想されています。
- 重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

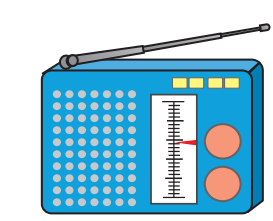
さまざまな災害の情報入手先

テレビ(リモコンのdボタン)



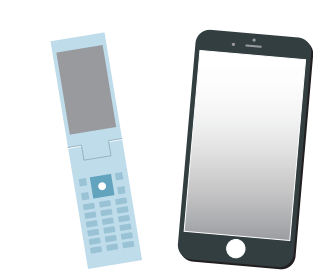
地上デジタル放送のデータ放送から防災情報を確認できます。地域で開設された避難所情報を見ることができます。

ラジオ



持ち運びもでき情報収集として災害発生時には有効な手段です。日ごろから受信状況を確認しておくことが大切です。

緊急速報メール



災害・避難情報等を、災害発生対象地区内の携帯電話やスマートフォンに同時配信するサービスです。

気象や防災に関する情報は以下のホームページなどからも入手できます。

防災情報全般

(警報・注意報/地震/竜巻など)

北海道防災情報



PC・スマホ版
<https://www.bousai-hokkaido.jp/>

気象情報

気象庁 札幌管区気象台



PC・スマホ版
<https://www.data.jma.go.jp/sapporo/>



気象庁サイト PC・スマホ版
<https://www.jma.go.jp/jma/>

雨量・水位情報

国土交通省 川の防災情報



PC・スマホ版
<https://www.river.go.jp/>

地震災害

災害への備え

自らの命、家族の命を守るために!

適時適切な避難を行うために、家族や地域で確認しましょう。

□ハザードマップ（P9～P21）を見て、河川が氾濫した場合には何m浸水してしまうのか、土砂災害が起こりやすい場所はないのかなど、自宅や職場等のよく立ち入る場所には、どのような危険があるのか確認しましょう。

□避難所（P22）までの経路や移動手段について計画しておきましょう。



1 自主防災を心がけましょう

地域の防災意識が、災害時に人命を助けることにつながる。

□東日本大震災では、近所の「声かけ」によって多くの方々が救われました。このことから地域の皆さんが協力して初期消火・被災者の救出・救助、災害や避難に関する情報の伝達、避難の誘導、避難所の運営を行うことにより地域の被害を少なくすることができます。

□自主防災を心がけ、日ごろからコミュニティを大切に、連帯感を深めていくことが必要です。



2 行政機関から提供される防災情報について確認しましょう

□避難情報、気象庁等の情報には、以下のものがあります。*1

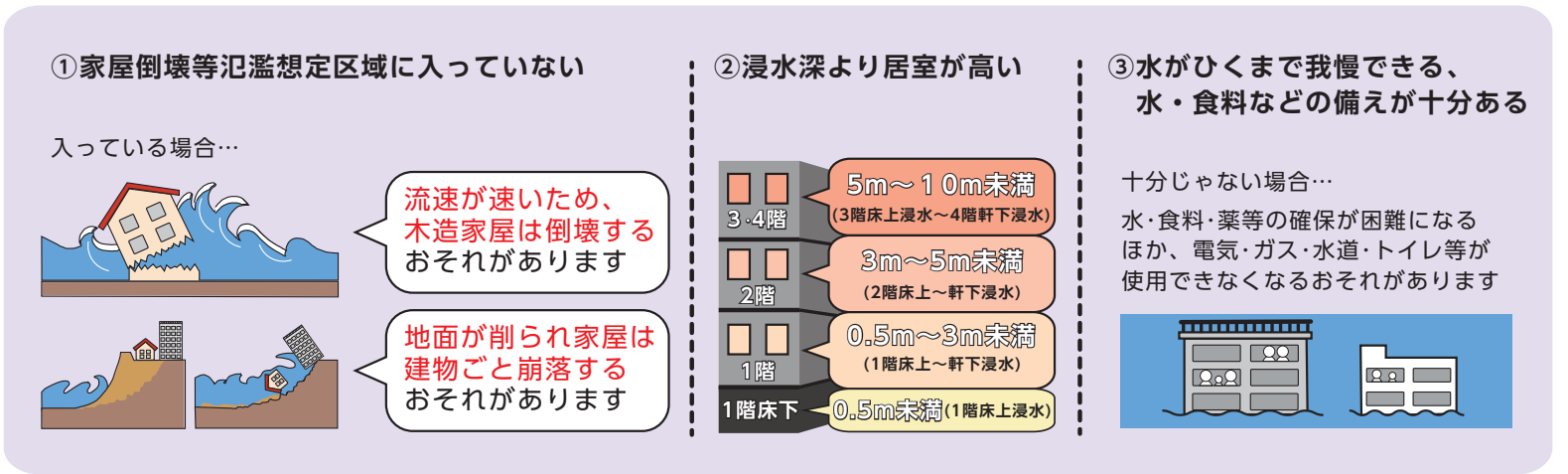
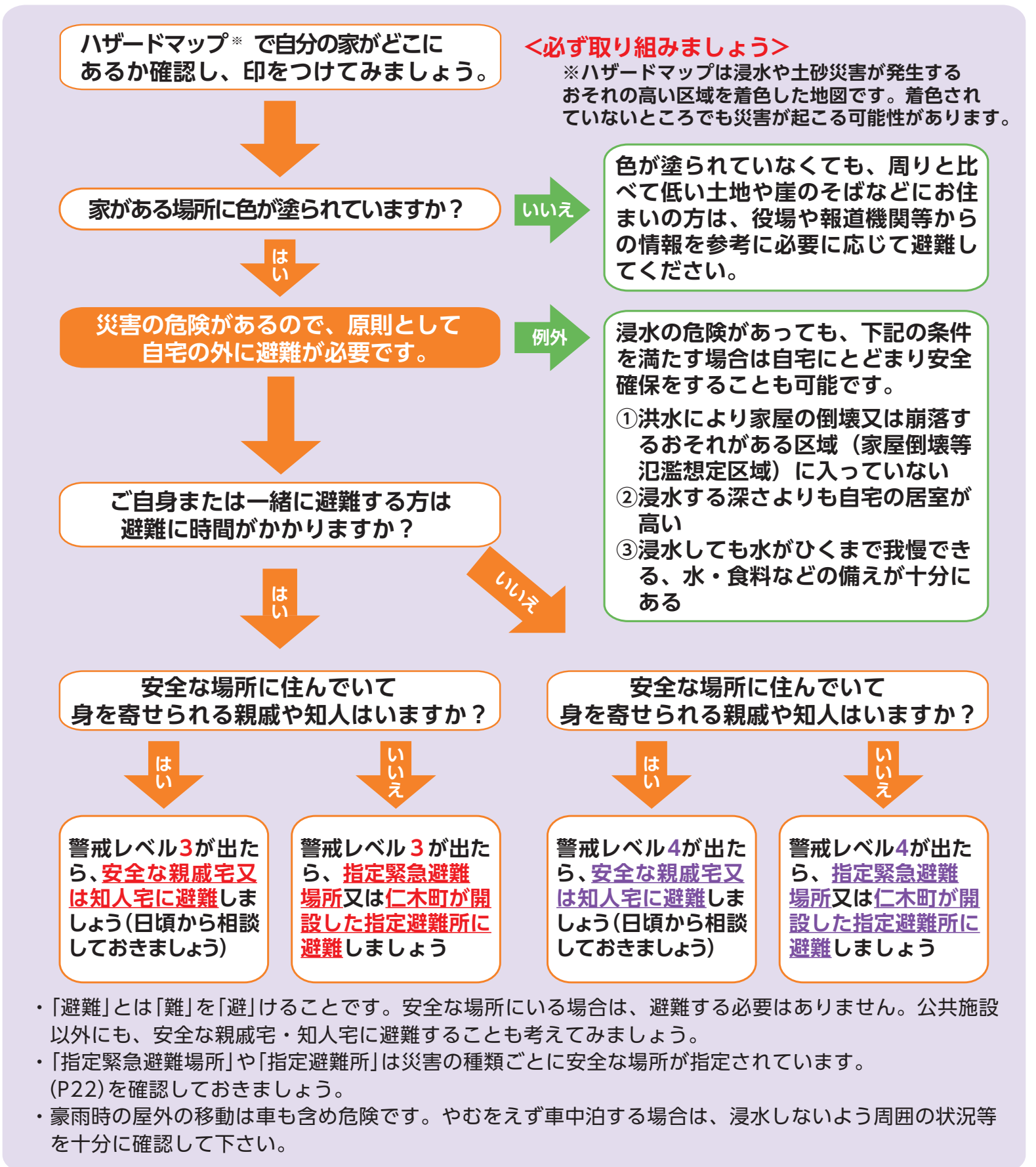
高	警戒レベル	避難情報	気象庁等の情報	避難行動
	警戒レベル5 命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保*2	大雨特別警報 等	すでに災害が発生、又はまさに発生しようとしている状況です。 命を守るための最善の行動をとりましょう。
< 警戒レベル4までに必ず避難! >				
	警戒レベル4 危険な場所から 全員避難	避難指示	土砂災害 警戒情報 等	速やかに危険な場所から避難先へ避難しましょう。避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。
	警戒レベル3 危険な場所から 高齢者等は避難	高齢者等避難	大雨警報 洪水警報 等	避難に時間を要する人(ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児等)とその支援者は危険な場所から避難しましょう。その他の人は、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難しましょう。
	警戒レベル2 ハザードマップ等で 避難行動を確認		大雨注意報 洪水注意報 等	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難先、避難経路を確認しましょう。
低	警戒レベル1		早期注意情報 (警報級の可能性)等	最新の気象情報等に留意するなど 災害への心構えを高めましょう。

・仁木町長は、気象庁等の情報のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に避難情報の発令判断をすることから、避難情報と気象庁等の情報が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。
・避難時の行動を示す「避難情報」については、今後、見直しされる場合があります。

*1 必ずしも、この順番で発令・発表されるとは限らないので、ご注意ください。

*2 緊急安全確保は、災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、必ず発令されるものではないことに留意してください。

あなたがとるべき避難行動は？（避難行動判定フロー）



災害への備え

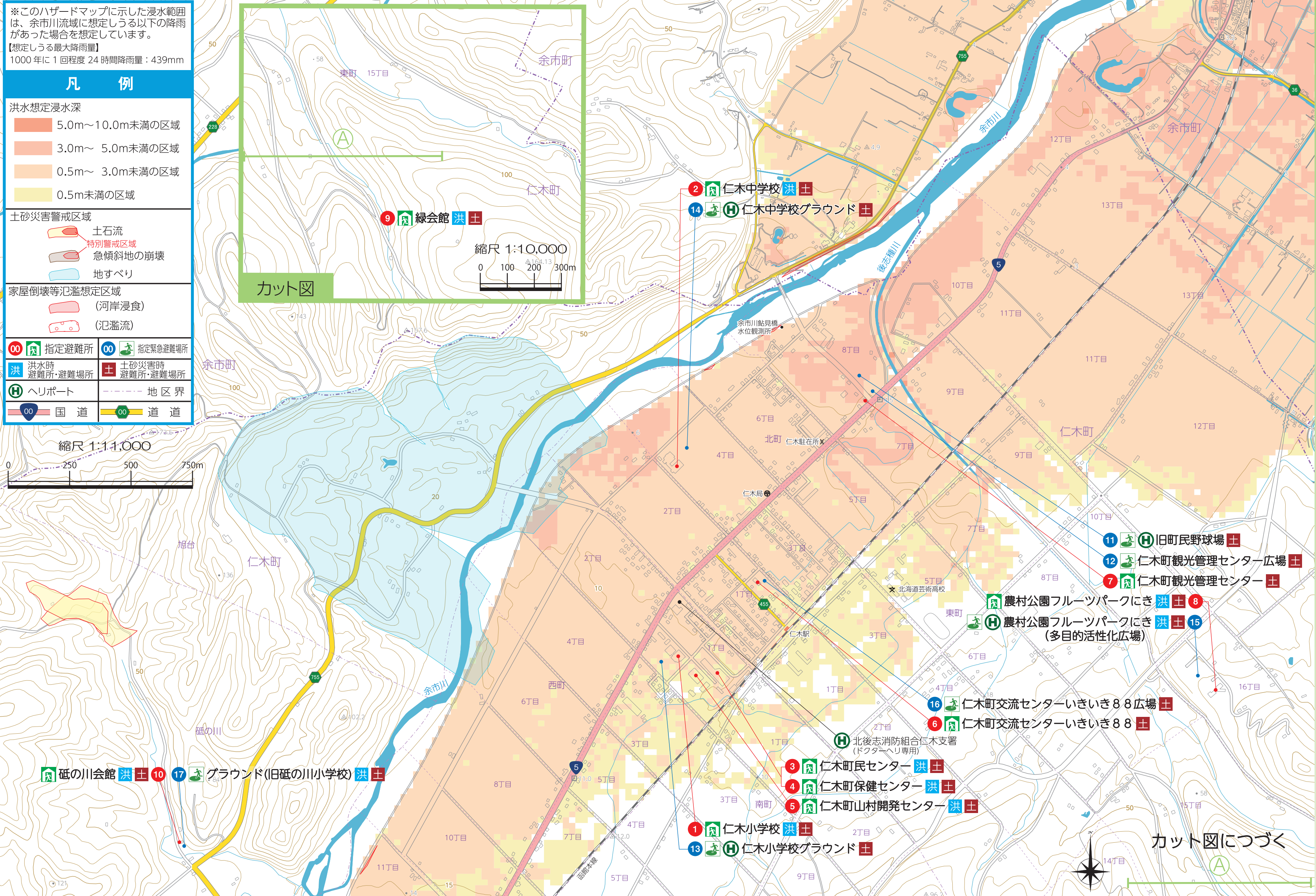
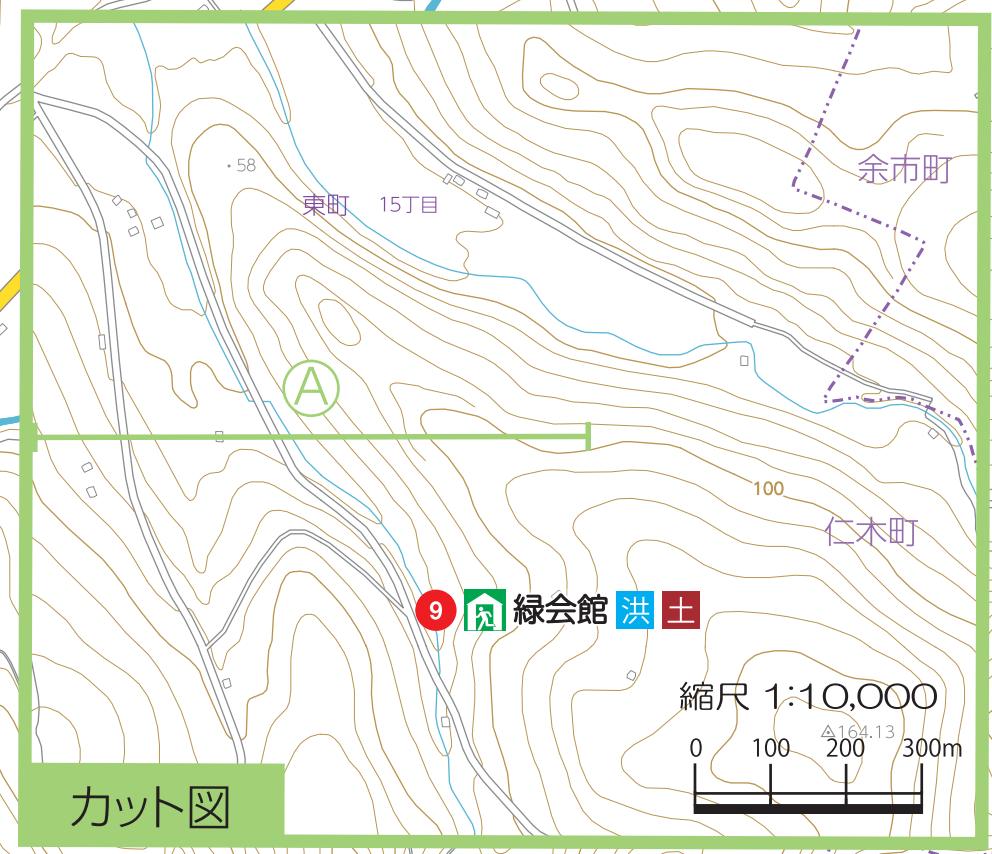
災害への備え

洪水浸水想定区域図(1000年に1回程度) 仁木地区

※このハザードマップに示した浸水範囲は、余市川流域に想定しうる以下の降雨があった場合を想定しています。
 【想定しうる最大降雨量】
 1000年に1回程度 24時間降雨量：439mm

凡 例			
洪水想定浸水深			
	5.0m～10.0m未満の区域		
	3.0m～ 5.0m未満の区域		
	0.5m～ 3.0m未満の区域		
	0.5m未満の区域		
土砂災害警戒区域			
	土石流		
	特別警戒区域		
	急傾斜地の崩壊		
	地すべり		
家屋倒壊等氾濫想定区域			
	(河岸浸食)		
	(氾濫流)		
	指定避難所		指定緊急避難場所
	洪水時避難所・避難場所		土砂災害時避難所・避難場所
	ヘリポート		地区界
	国道		道道

縮尺 1:11,000
 0 250 500 750m



- 11 旧町民野球場
- 12 仁木町観光管理センター広場
- 7 仁木町観光管理センター
- 8 農村公園フルーツパークにき
- 15 農村公園フルーツパークにき (多目的活性化広場)

- 10 砥の川会館
- 17 グラウンド(旧砥の川小学校)

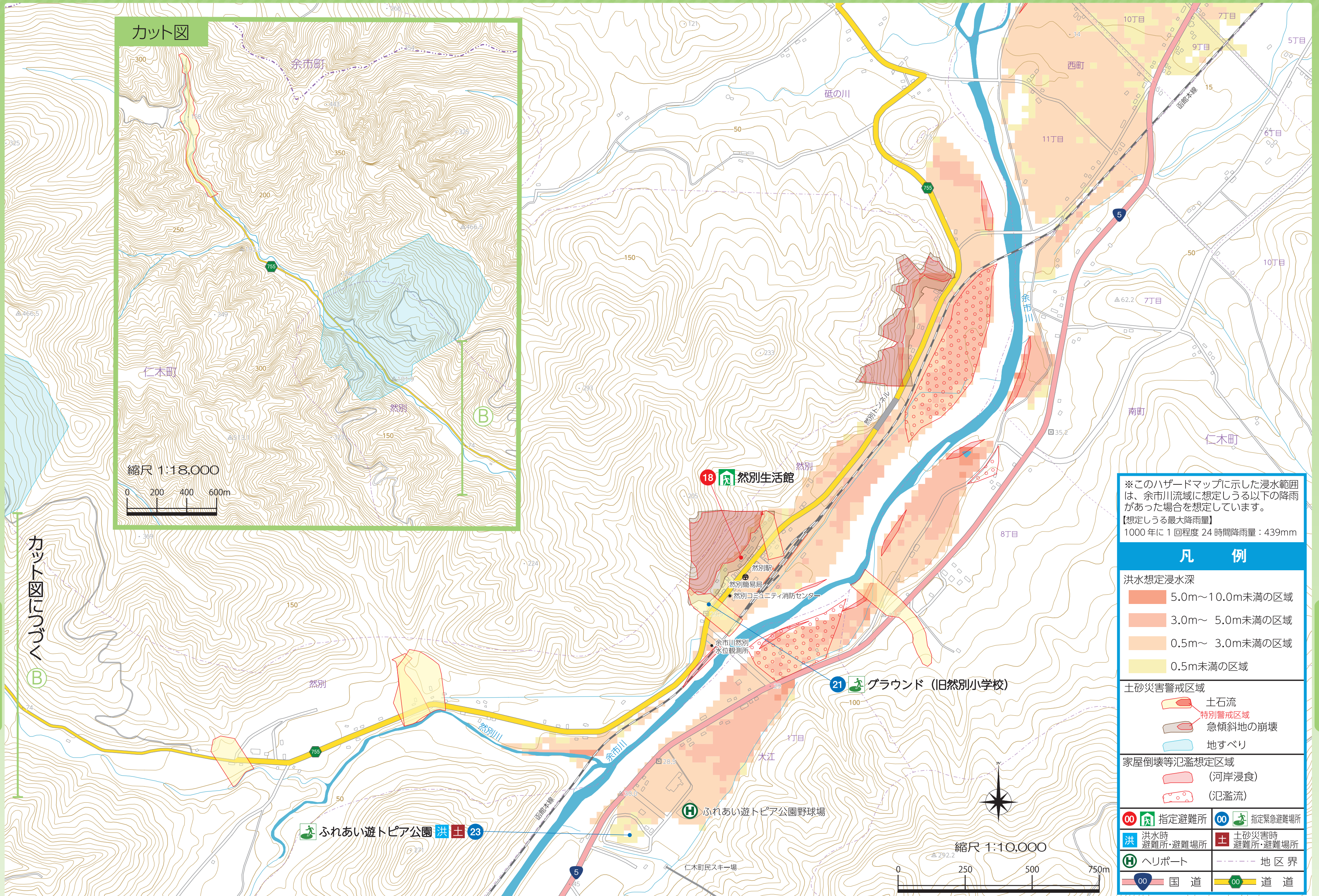
- 1 仁木小学校
- 13 仁木小学校グラウンド
- 3 仁木町民センター
- 4 仁木町保健センター
- 5 仁木町山村開発センター

- 16 仁木町交流センターいきいき88広場
- 6 仁木町交流センターいきいき88

カッタにつづく

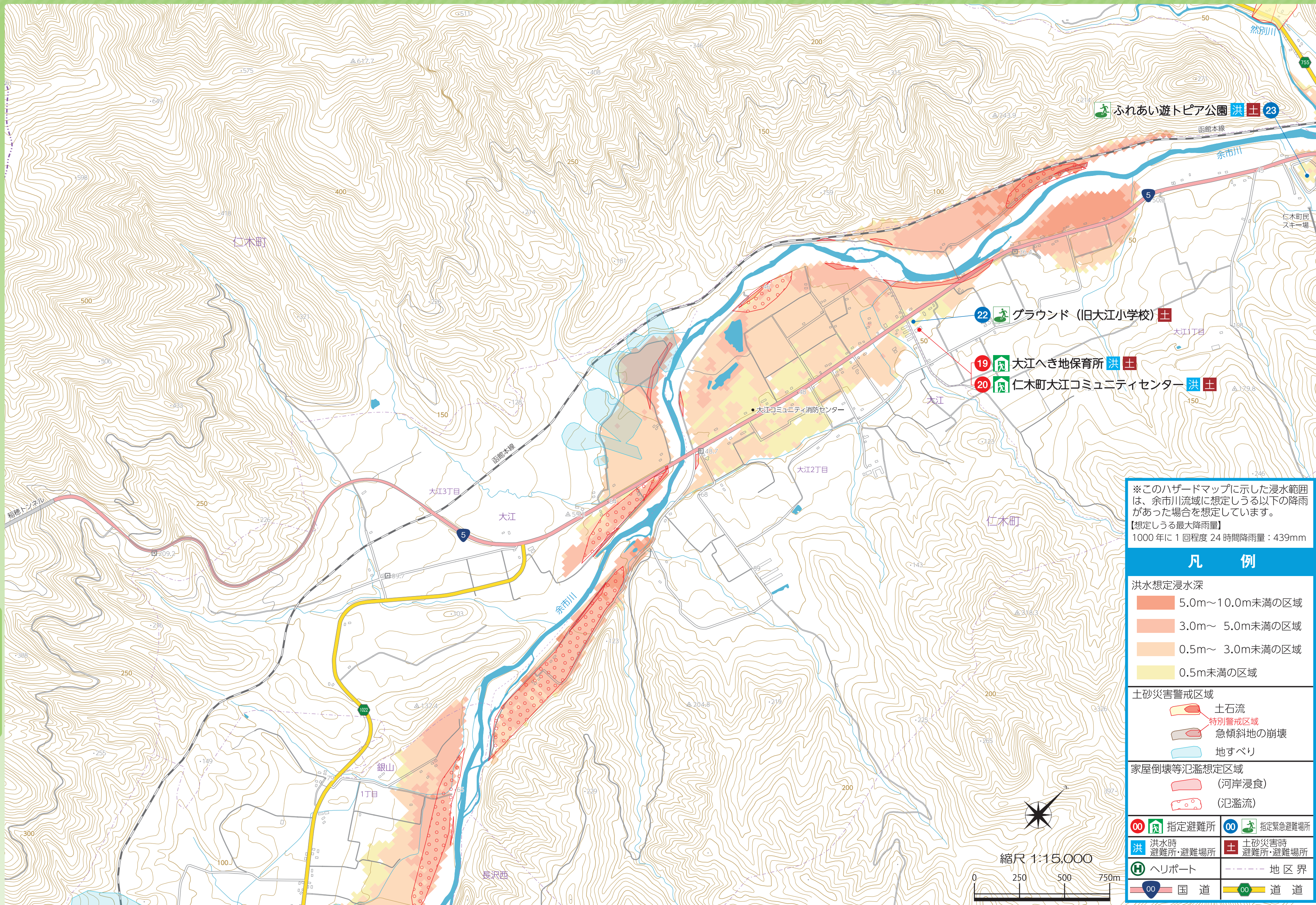
ハザードマップ

ハザードマップ



ハザードマップ

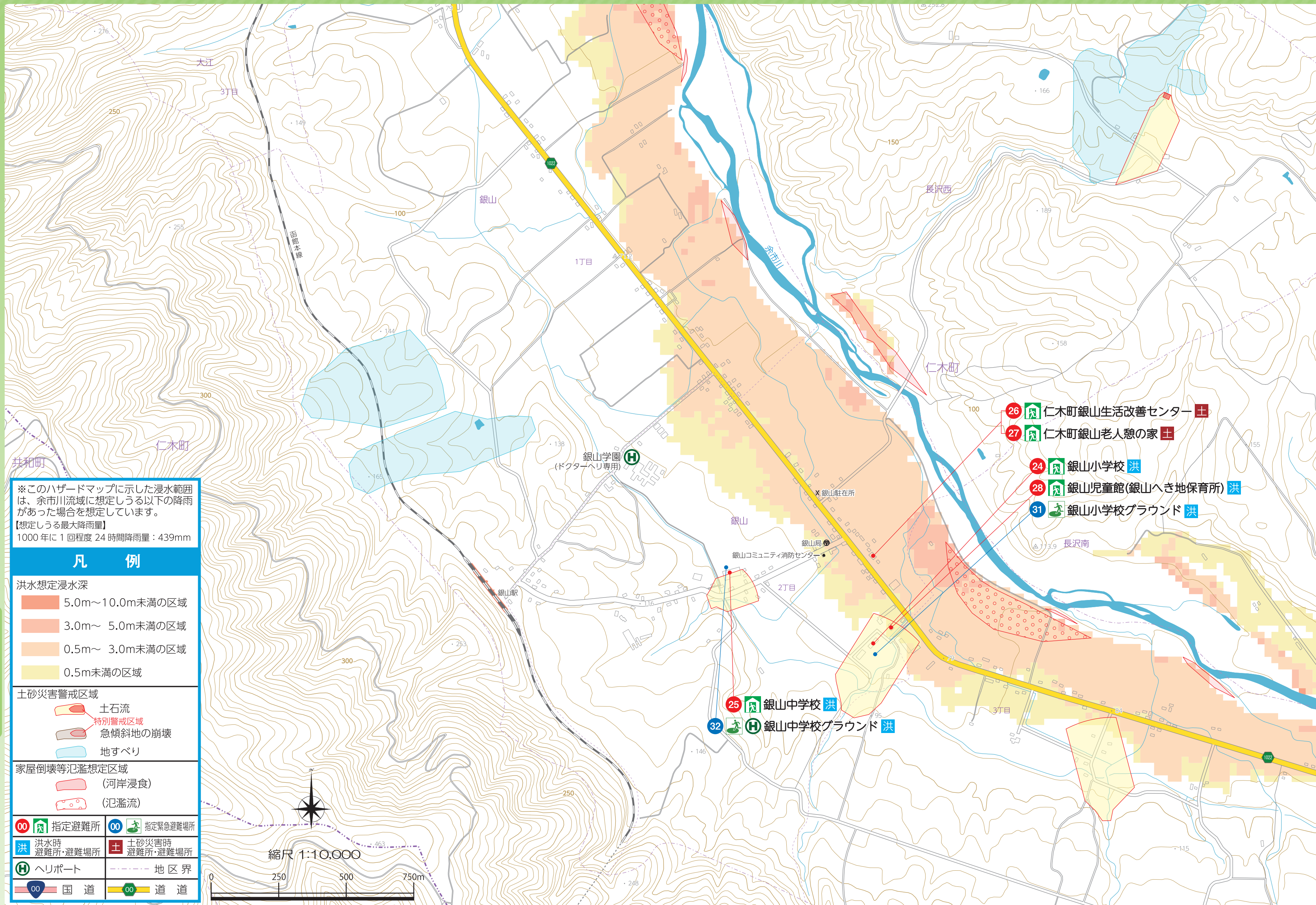
ハザードマップ



※このハザードマップに示した浸水範囲は、余市川流域に想定しうる以下の降雨があった場合を想定しています。
 【想定しうる最大降雨量】
 1000年に1回程度 24時間降雨量：439mm

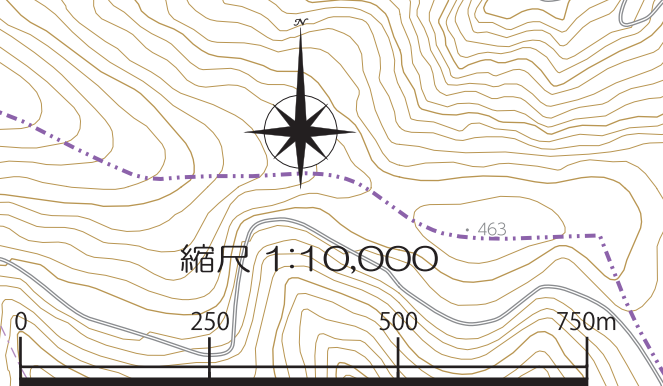
凡 例			
洪水想定浸水深			
	5.0m～10.0m未満の区域		
	3.0m～ 5.0m未満の区域		
	0.5m～ 3.0m未満の区域		
	0.5m未満の区域		
土砂災害警戒区域			
	土石流 特別警戒区域		
	急傾斜地の崩壊		
	地すべり		
家屋倒壊等氾濫想定区域			
	(河岸浸食)		
	(氾濫流)		
	指定避難所		指定緊急避難場所
	洪水時 避難所・避難場所		土砂災害時 避難所・避難場所
	ヘリポート		地区界
	国道		道道





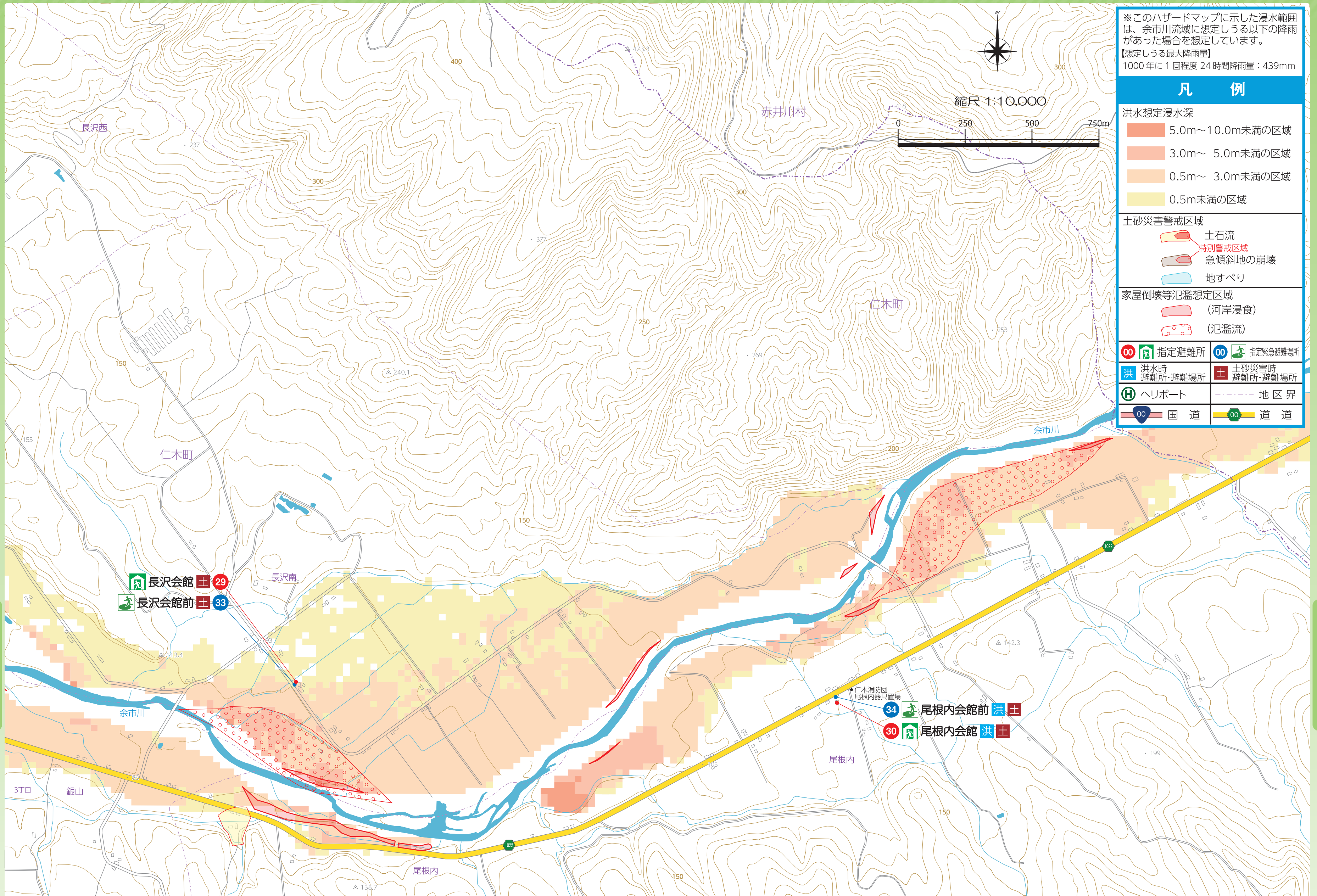
※このハザードマップに示した浸水範囲は、余市川流域に想定しうる以下の降雨があった場合を想定しています。
 【想定しうる最大降雨量】
 1000年に1回程度 24時間降雨量：439mm

凡 例	
洪水想定浸水深	
	5.0m～10.0m未満の区域
	3.0m～5.0m未満の区域
	0.5m～3.0m未満の区域
	0.5m未満の区域
土砂災害警戒区域	
	土石流
	特別警戒区域
	急傾斜地の崩壊
	地すべり
家屋倒壊等氾濫想定区域	
	(河岸浸食)
	(氾濫流)
	指定避難所
	指定緊急避難場所
	洪水時避難所・避難場所
	土砂災害時避難所・避難場所
	ヘリポート
	地区界
	国道
	道道

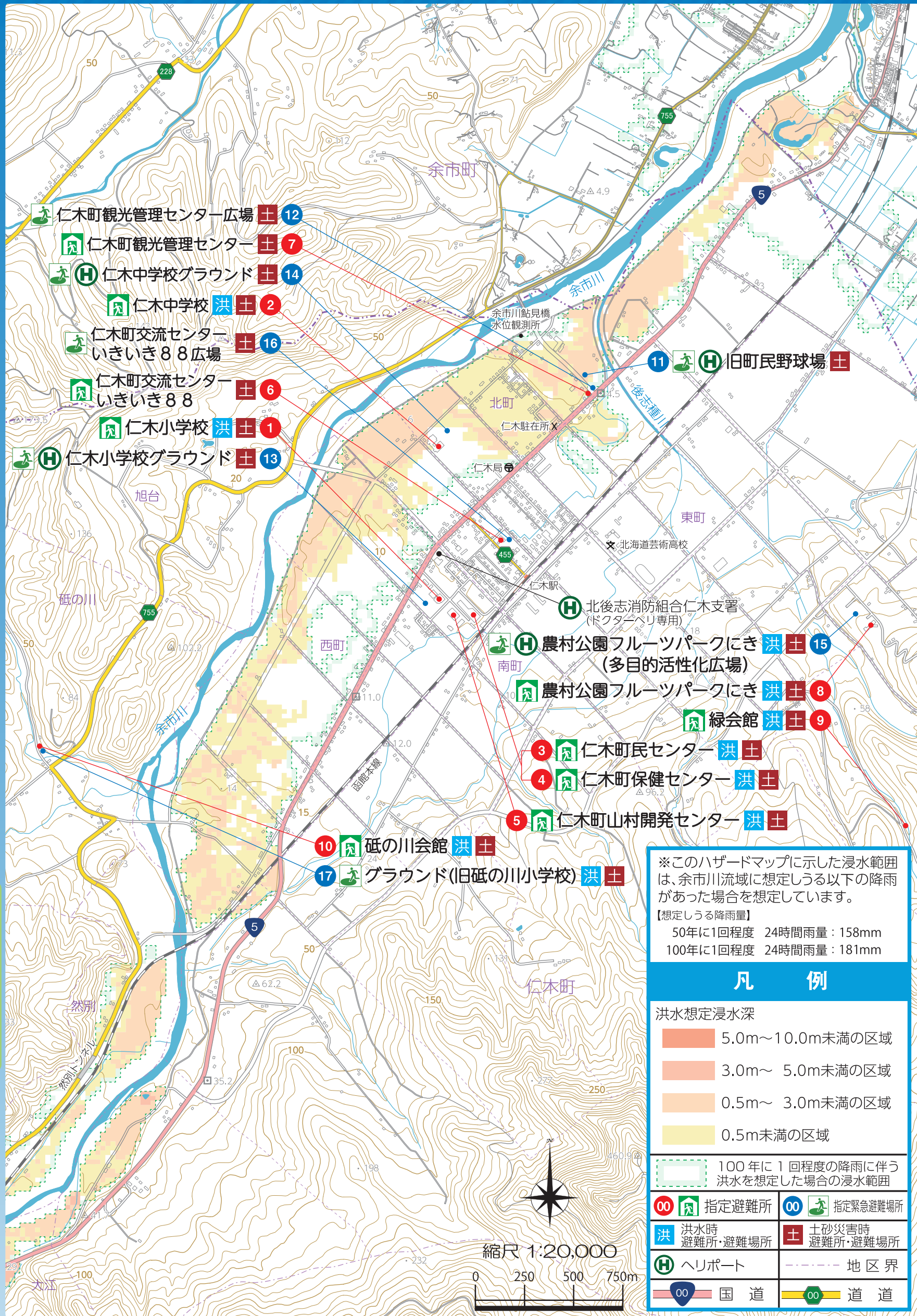


ハザードマップ

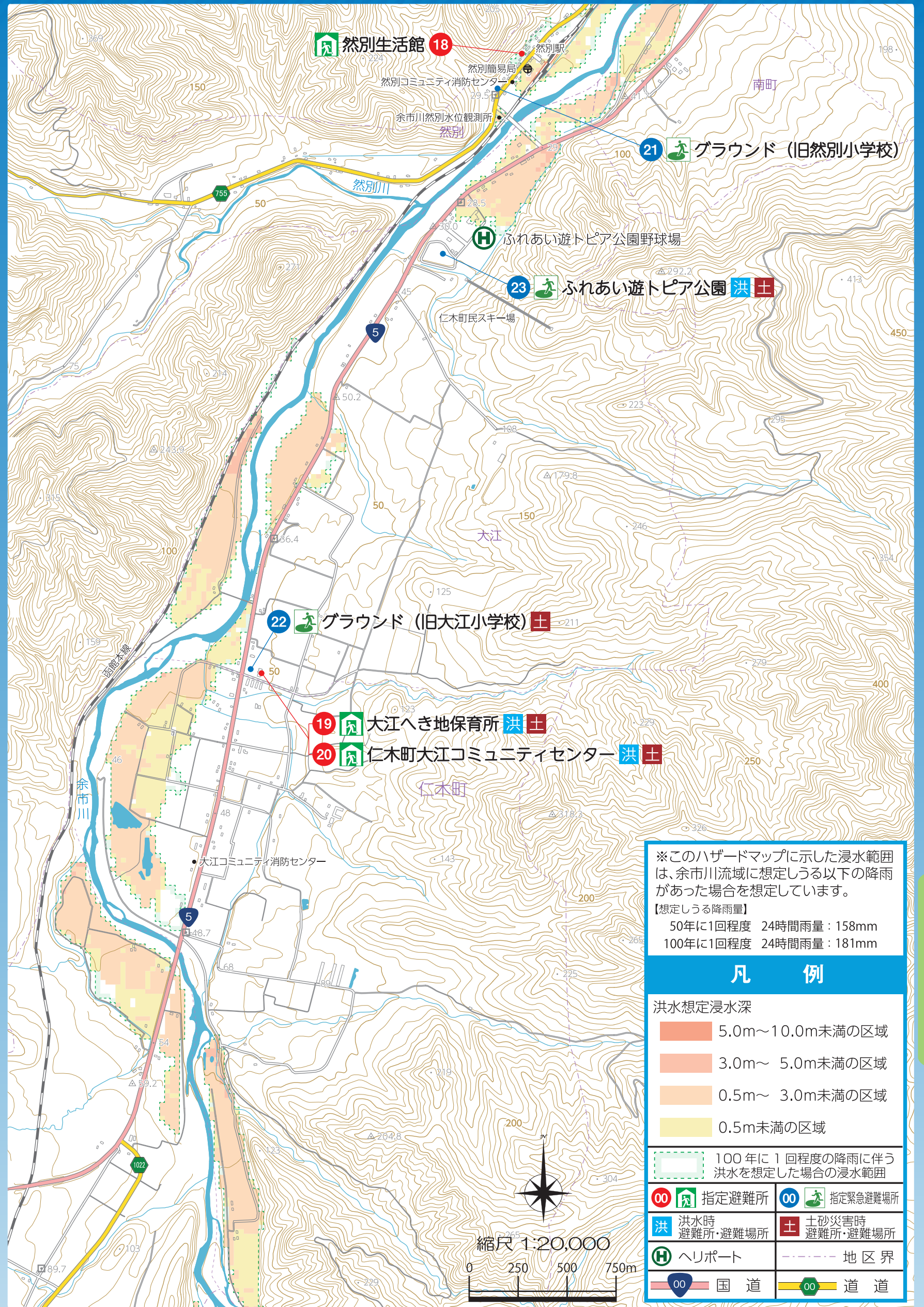
ハザードマップ



洪水浸水想定区域図(50年に1回程度) 仁木地区



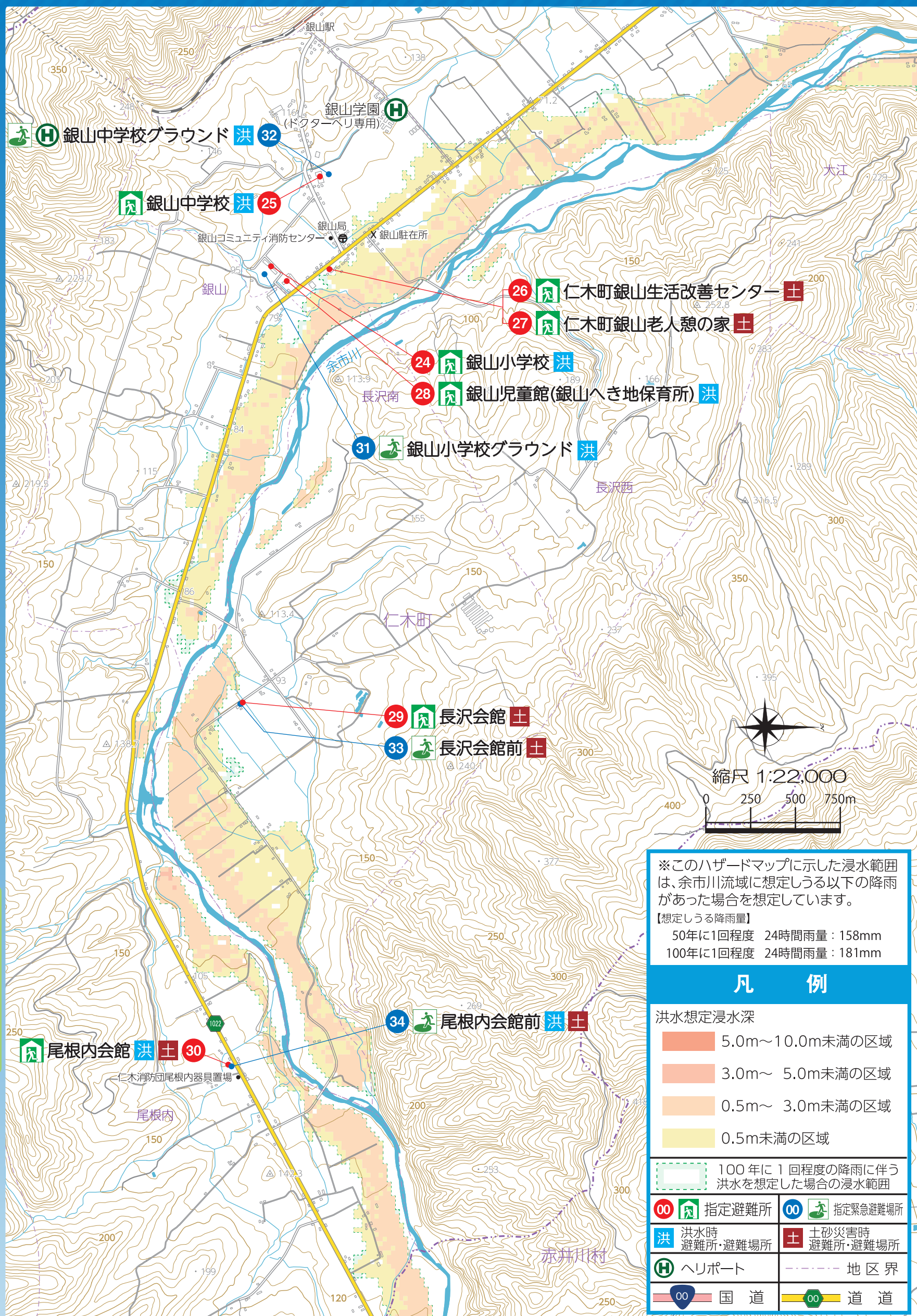
洪水浸水想定区域図(50年に1回程度) 大江地区



ハザードマップ

ハザードマップ

洪水浸水想定区域図(50年に1回程度) 銀山地区



※このハザードマップに示した浸水範囲は、余市川流域に想定しうる以下の降雨があった場合を想定しています。
 【想定しうる降雨量】
 50年に1回程度 24時間雨量：158mm
 100年に1回程度 24時間雨量：181mm

凡 例	
洪水想定浸水深	
	5.0m～10.0m未満の区域
	3.0m～ 5.0m未満の区域
	0.5m～ 3.0m未満の区域
	0.5m未満の区域
	100年に1回程度の降雨に伴う洪水を想定した場合の浸水範囲
00	指定避難所
0	指定緊急避難場所
洪	洪水時避難所・避難場所
土	土砂災害時避難所・避難場所
H	ヘリポート
	地区界
	国道
	道道

【測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R 3JHs 272】
 【JIS Z 8210 広域避難場所 避難所(建物)】

指定避難所・指定緊急避難場所

仁木地区

No	避難区分		施設名	住所	電話番号 市外局番(0135)	想定される災害区分			
	指定避難所	指定緊急避難場所				土砂 土石流	崖崩れ 地滑り	洪水	大規模 火災
1	○		仁木小学校	西町1丁目52番地4	32-2013	○	○	○	○
2	○		仁木中学校	北町4丁目52番地	32-2079	○	○	○	○
3	○		仁木町民センター	西町1丁目36番地1	32-3958	○	○	○	○
4	○		仁木町保健センター	西町1丁目36番地1	32-3959	○	○	○	○
5	○		仁木町山村開発センター	西町1丁目52番地	32-3622	○	○	○	○
6	○		仁木町交流センターいきいき88	北町1丁目88番地1	32-2650	○	○	×	○
7	○		仁木町観光管理センター	北町8丁目17番地	32-2180	○	○	×	○
8	○		農村公園フルーツパークにき	東町16丁目121番地	32-3500	○	○	○	○
9	○		緑会館	東町15丁目66番地	32-2513(住民課)	○	○	○	○
10	○		砥の川会館	砥の川303番地1	32-2513(住民課)	○	○	○	○
11		○	旧町民野球場	北町8丁目25番地1	32-2511(総務課)	○	○	×	○
12		○	仁木町観光管理センター広場	北町8丁目25番地1	32-3951(産業課)	○	○	×	○
13		○	仁木小学校グラウンド	西町1丁目60番地	32-2013	○	○	×	○
14		○	仁木中学校グラウンド	北町4丁目52番地	32-2079	○	○	×	○
15		○	農村公園フルーツパークにき(多目的活性化広場)	東町16丁目121番地	32-3500	○	○	○	○
16		○	仁木町交流センターいきいき88広場	北町1丁目88番地1	32-2650	○	○	×	○
17		○	グラウンド(旧砥の川小学校)	砥の川303番地	32-2513(住民課)	○	○	○	○

大江地区

No	避難区分		施設名	住所	電話番号 市外局番(0135)	想定される災害区分			
	指定避難所	指定緊急避難場所				土砂 土石流	崖崩れ 地滑り	洪水	大規模 火災
18	○		然別生活館	然別91番地2	32-2513(住民課)	○	×	×	○
19	○		大江へき地保育所	大江1丁目345番地1	32-3453	○	○	○	○
20	○		仁木町大江コミュニティセンター	大江1丁目345番地1	32-3452	○	○	○	○
21		○	グラウンド(旧然別小学校)	然別141番地	32-2511(総務課)	×	×	×	○
22		○	グラウンド(旧大江小学校)	大江1丁目345番地	32-2513(住民課)	○	○	×	○
23		○	ふれあい遊トピア公園	大江1丁目929番地	32-3260	○	○	○	○

銀山地区

No	避難区分		施設名	住所	電話番号 市外局番(0135)	想定される災害区分			
	指定避難所	指定緊急避難場所				土砂 土石流	崖崩れ 地滑り	洪水	大規模 火災
24	○		銀山小学校	銀山2丁目446番地	33-5314	×	○	○	○
25	○		銀山中学校	銀山2丁目113番地	33-5223	×	○	○	○
26	○		仁木町銀山生活改善センター	銀山2丁目470番地	33-5004	○	○	×	○
27	○		仁木町銀山老人憩の家	銀山2丁目470番地	33-5004	○	○	×	○
28	○		銀山児童館(銀山へき地保育所)	銀山2丁目459番地	33-5156	×	○	○	○
29	○		長沢会館	長沢南464番地2	32-2513(住民課)	○	○	×	○
30	○		尾根内会館	尾根内221番地4	32-2513(住民課)	○	○	○	○
31		○	銀山小学校グラウンド	銀山2丁目446番地	33-5314	×	○	○	○
32		○	銀山中学校グラウンド	銀山2丁目113番地	33-5223	×	○	○	○
33		○	長沢会館前	長沢南464番地2	32-2513(住民課)	○	○	×	○
34		○	尾根内会館前	尾根内221番地4	32-2513(住民課)	○	○	○	○

指定避難所
被災者が一定期間滞在するための施設

指定緊急避難場所
災害が発生し、または発生するおそれがある場合にその危険から逃れるための避難場所

ハザードマップ

避難所・避難場所

わが家の防災・緊急情報メモ



災害時・緊急時の連絡先などの情報をまとめておきましょう。
災害時に救助の方や、救急隊・医療機関・町に情報を提供します。

緊急情報

わが家の避難所

施設名	電話番号

家族の連絡先

家族の名前	連絡先(勤務先・学校など)	電話番号	携帯電話番号

家族の緊急情報・救急メモ

家族の名前	生年月日	血液型	持病・アレルギー	かかりつけ医療機関

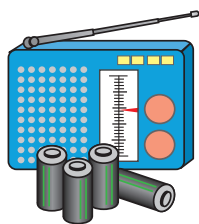
【メモ】※書ききれなかった内容や、知ってほしい情報(介護情報・救急隊員への伝言など)をお書きください。

非常時持出品の準備&チェック

非常時持出品(例)

事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

携帯ラジオ



- ラジオ
- 電池(多めに用意)

救急医療品



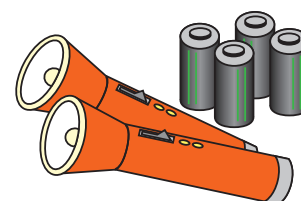
- 持病薬
- 絆創膏
- 傷薬
- 包帯
- 風邪薬
- 胃腸薬
- 鎮痛剤
- お薬手帳
- 体温計
- マスク
- 消毒液

貴重品



- 現金
- 預金通帳
- 印鑑
- 免許証
- 健康保険証
- 権利証書

懐中電灯



- 懐中電灯(できれば一人にひとつ)
- 電池(多めに用意)

その他

非常食品



- 火を通さずに食べられるもの、食器など
- カンパン
 - 缶詰
 - 非常用食品
 - ミネラルウォーター
 - 缶切り
 - 栓抜き
 - 紙皿
 - 紙コップ
 - 水筒



- 衣類(下着・上着など)
- ヘルメット
- 生理用品
- ライター
- 紙おむつ
- 雨具
- 離乳食
- 防寒具(時季による)
- 粉ミルク
- 毛布
- タオル
- 寝袋
- ウェットティッシュ
- スリッパ
- ラップフィルム
- (止血や食器にかぶせて使う)
- 防災ガイドマップ(本書)